

実際の家相・風水

琉球大学工学部情報工学科 3年

e055701D 新垣祐一郎

提出日：2007年 7月 23日 月曜日

この調査の動機と、目指すところ

今年、実家を新築することになったので、間取りや設計を計画する上で重要な「風水と家相」について調べることになりました。今回のレポートは知識を増やすこと以上に、自分なりに推理することを重視して「家相・風水の仕組みと実態」について自分なりに理解を深めることができれば、まだ風水が浸透していない分野にも風水の理屈を応用できるんじゃないかと思ったので、これを目標としました。

1、「風水」と「家相」

「風水」と「家相」について 一般的にどう言われているか を、辞書の言葉などから意味を解釈して考えてみた。

風水	古代中国の思想であり、土地の風土から住居や建物、都市などの位置を考える環境学。
家相	日本的な住み良い家を作るための、古くからの知恵を集約したもの。

<家相と風水との違いについて考えてみる>

以上をふまえて、風水と家相との違いをおおまかにまとめてみる。

風水について

風水は「風土、水勢から住居、埋葬の地を選定するもの」であり、学問的には 地理学に近い。

- 1、水や太陽、樹木などからのエネルギーを利用して、生活にいかす
- 2、建物の配置によって風をあやつることにより、
- 3、良い気の流れを呼び込み、悪い気を逃がす

...

というように、目に見えない大自然のパワーをもらいながら生活しようとする要素が強いようだ。

風水の本来の目的はあくまで健康・繁栄であって、金運アップとかいう要素はあとづけされたものだと思う。

家相について

それに比べて家相は「家の位置や間取りなどから吉凶を占うもの」であり、学問的には 建築学に近い。

- 1、家の全体的な形を見て吉凶を占う
- 2、鬼門の方角を嫌う
- 3、東、東南、北西を吉方とする

...

というように、中国から来た風水を日本の風土に応用させて、

「その家の運勢を占う」という要素が風水に比べて少し強いようだ。

風水と家相の違いについてはなんとなく分かってきたが、このレポートでは深く考えずに「自然環境に合った暮らしを実現するための古くからの教え」という意味でひとまとめにして扱っていくことにする。

2、方位について

住宅の間取りの配置において、その家の家相に一番の影響を与える要素である「方位」について簡単にまとめてみる。

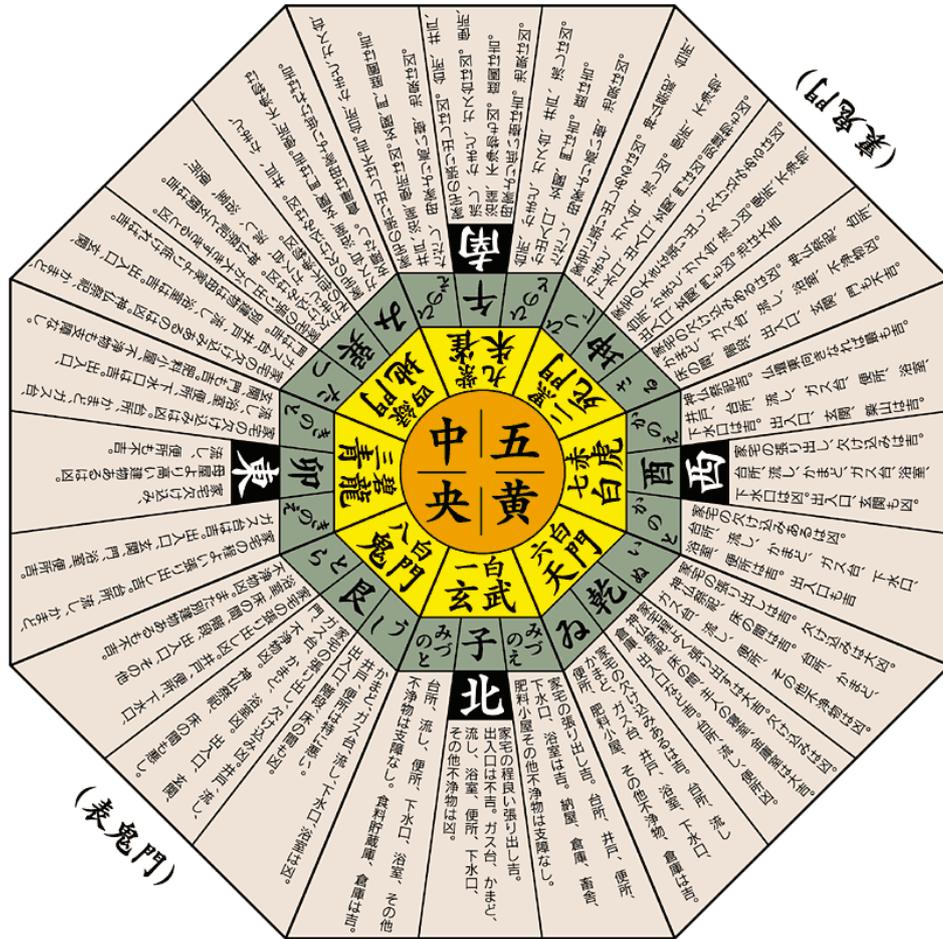


図 1: 一般的な家相盤

(図は『国宝 大崎八幡宮』より引用)

< 東と西 >

家相では東側はポジティブ、西側はネガティブなイメージで扱われる。これは、太陽の「東から昇って西に沈む」という動きが大きく影響している。同じ角度で射す日射しでも、朝の涼しくて健康的な東日と、夕方の暑く照りつける西日とは人間に与える効果がまったく違う。一般的には東側がすごしやすく、西側がすごしにくいと言われる。

< 東南 >

東南の方角は「夏涼しく冬暖かい」という性質が強く、『この方位には何を配置しても吉』とよく言われる。特に東南の玄関は「巽玄関」と呼ばれ、お金や幸せが入ってくるといわれ、吉相の代表として扱われる。

< 北西 >

北西の方位は、可も無く不可も無い、無難な方位として扱われる。トイレや風呂やキッチンなどの水場には「凶」の要素が強いため、北西の位置に配置するケースが多い。また、沖縄の伝統的な家屋では、一般的にこの方位に台所が配置される。

< 表鬼門 (東北) >

表鬼門と呼ばれる東北の方位は、寒さによる災いが大きく、トイレや風呂などの水場がこの方位にあると「大凶」と言われる。また『不潔にすると幽霊がでやすくなる』と言われたりして、負のイメージを強く持たれる。

< 裏鬼門 (南西) >

裏鬼門は、表鬼門の180度反対の南西の方位にあたり、暑さによる災いが大きい。表鬼門と同じく、トイレや風呂などの水場がこの方位にあると「大凶」と言われる。

3、風水の正体について考える

科学的にとらえる

風水を構成している要素として、「気」や「エネルギー」という概念が大きい。まず「気」について考える。いろいろ調べると「気は風に乗ってやってくる」というような記述もあって矛盾してしまうが、僕たちの概念では「気 = 空気」と考えた方がいいのではないかと思う。たとえば、古い中国の都だった長安の城内の街は、現在のニューヨークの市街地のようなブロック型の都市設計がなされていたというが、これは「気」の流れ、つまり風による空気の流れを考えた造りなのではないかと思う。

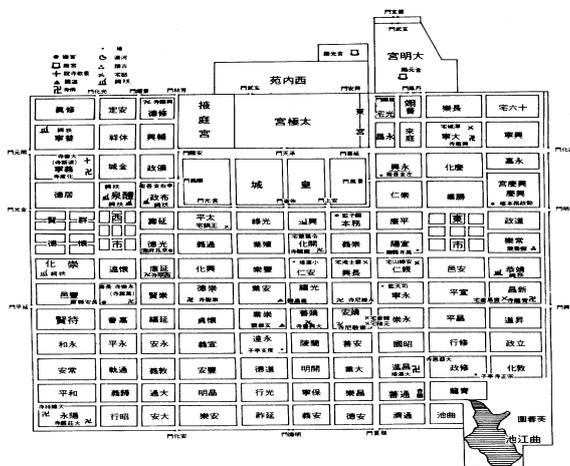


図 2: 気の流れを考慮して設計された長安の城内
(図は『中華基督教會燕京書院圍棋學會』より引用)

このように設計すれば風が道に沿ってまっすぐ通るため、とても通気性がよくて新鮮な空気がそれぞれの家にまんべんなく入るはず。風水では、道がある側に玄関を配置することで「道を走っている龍のパワーを玄関から取り入れると、その家は繁栄する」というように言われることがありますが、この言葉は実際には「道を通る空気を直接家に入れて家の中に新鮮な空気を取り入れる」という意味ではないかと思われま。

科学では説明しにくい部分

「エネルギー」は科学的には「物体が仕事をする能力」となるが、風水でいうところのエネルギーとは、おそらく「人間に対して良い影響、もしくは悪い影響を与える力」のことだと思います。水晶や金といった、強いエネルギーを持った物質もあるし、東京千代田区にある皇居のような強いエネルギーを持ったスポットもあるようです。風水の「エネルギー」は直接人間の五感では感じる事が出来ないで、第六感的なもので感知するものかもしれません。

簡単な結論

間違った情報を鵜呑みにせず、数ある情報を取捨選択して判断を下すことが最も賢い考え方なのではないかと思ひます。家があつて鬼門がある以上、すべての間取りが凶相にならないように考えるのは非常に難しいこと。だから間取りを設計していく上で一番大切なことは、「自分たちが一番何を大切にしたいか」を家族とじっくり話し合うことではないかと思ひます。

4、凶相の根拠とその対処法について考えてみる

神仏や呪いの類いでない以上、どんな凶相にも必ず対処法があるはず。その事実をふまえて、家相における具体的な凶相と、どうして凶となっているのかという根拠、またその対処法について幾つか考えてまとめてみます。

<南西の風呂トイレ台所>

「裏鬼門」と呼ばれる南西の方位に水場を配置してしまうと、西日からの暑さによって、水場の汚れから細菌が繁殖しやすくなり、それがいろんな病原となるため衛生上、健康に害をきたすと思われる。

これらの具体的な対策法としては、

- 1、蒸し暑くならないように光をさえぎる加工をする
- 2、換気を徹底して外の新鮮な空気を盛んに取り入れる
- 3、こまめに掃除するなど、つねに清潔にするように気をつける。

…

などが考えられる。

<東北の風呂トイレ台所>

「表鬼門」と呼ばれる東北の方位に水場を配置してしまうと、北風による脱衣所や浴室の寒さと、お湯に入ったときの熱さとの温度差から

ヒートショック（血圧の急激な変動による事故）などの事故が発生する危険性が大きいと思われる。

統計的にヒートショックは冬場の寒い時期に発生率が高く、

年間の死者は交通事故による死者よりも多く、年間1万人以上にもものぼると言われる。

これらの具体的な対策法としては、

- 1、脱衣所や浴室の温度が下がらないように配慮する。
- 2、「お湯は熱い」という潜在意識を強めるために、浴室のタイルの色を赤などの暖色系にする。

…

などが考えられる。

上記の3でも述べたように、家の間取りの構成において、家相的に完璧な家にするには非常に難しいし、たいていの場合どこかしらに多少問題が生じるような家作りになってしまうはず。それでいざ風水の知識を学んだときに、自分の家に凶相が見つかったとしても「うちの家は家相が悪いから、早く出て行って他の家に住みたい」というようにネガティブになるよりも「こうしたらもっと良くなるはず」というポジティブな姿勢で風水に向かうことが大切であり、そのほうが自分の家への愛着もわくし、実際に自分もっている知識を自分の家に応用するという体験を通して家相・風水についての理解がさらに深まるんじゃないかとも思います。

5、風水を誤解することの危険性について

風水設計での具体的な失敗例

家相風水についての情報は、知識や言葉だけを鵜呑みにしたり誤解したりしないように気をつけなければならない。具体的に失敗した例として以下のようなケースもあります。



図 3: 東南に張り出した台所
(図は『小池康壽の現代家相学』より引用)

一般的に「東南の張り(突き出した部分)は吉」と言われるが、この図の状況では、東南に台所を張り出してしまったがために、強く照りつける西日の影響を受けやすくなってしまって、結果的には「風水を考慮した結果、吉になると考えていた東南の台所が逆に凶になってしまった」という例です。このように「一般的な知識に従っただけの風水」を実践することはかなり危険であることがわかります。また、本来は健康・繁栄が目的であるはずの風水なのに「玄関の位置をココにもってこれば会社で出世する」とか、「ここに黄色のグッズを置いたら金運があがる」など、健康面以外での効果をうたったものが世の中にはびこっていますが、これらは科学的に根拠のないものが多く、実際に効果があるかどうかは別として 風水に対する信仰を屈折して間違った方向に行ってはいけない と思います。

6、沖縄の風水

中国、日本、沖縄は、それぞれ風土が微妙に異なるので、その土地ごとに風水の常識は変わってきます。台所は、基本的に一年中蒸し暑くなる場所なので、家の涼しいところに配置することが基本的な原則になっています。そのため、中国や日本の風水では台所は家の東側に配置するのが良いとされています。しかし沖縄においては真逆で、昔から台所は西側（北西）にもってくる決まりになっています。これは「西日の影響で物が腐りやすい」西側の台所を嫌う、中国や日本の風水とは矛盾しています。

台所トイレ風呂の位置の違い（マルでかこんだ部分がそれぞれの台所の位置です）

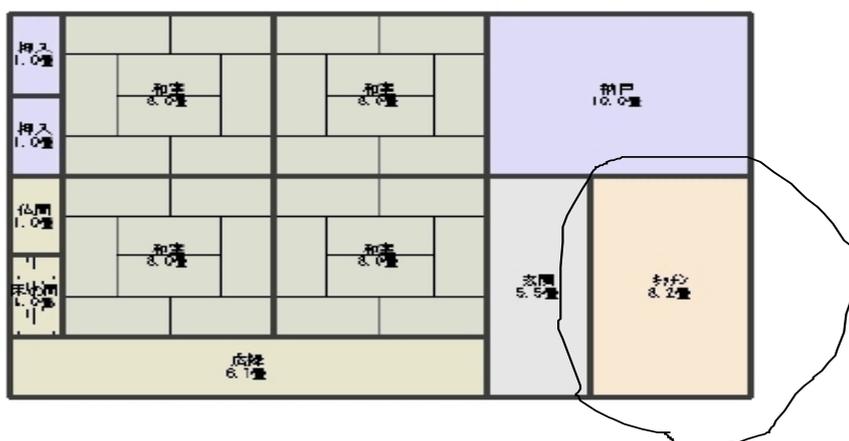


図 4: 日本（本土）の伝統的な家屋（東南に台所）

（図は『小池康壽の現代家相学』より引用）

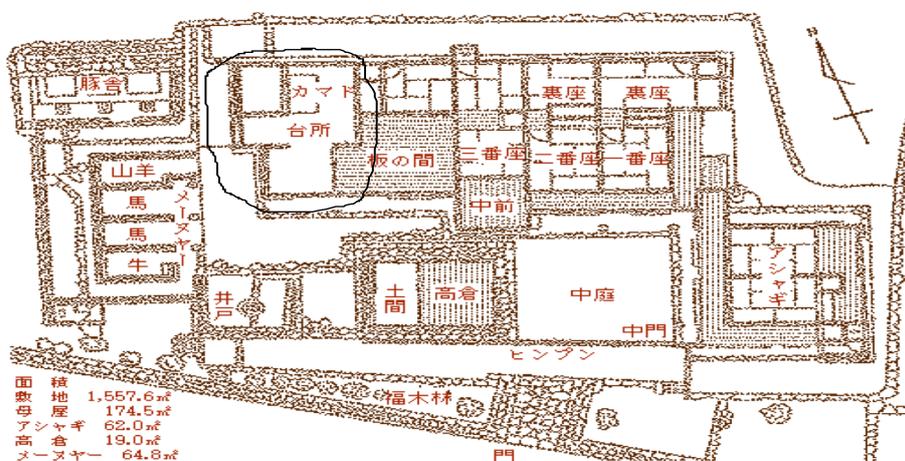


図 5: 沖縄：中村家（北西に台所）

（図は『中村家ホームページ』より引用）

どうして沖縄の家屋は台所や風呂、便所を西側に配置するのか。このことは前々からの疑問でした。これには、おそらく沖縄の特徴的な「中国大陸から流れてくる西風」が関係していると思われる。僕がその西風の存在に気づいたのは、自宅の西側の窓から強い風が入ってきた時でした。普通は、家の風通しを考える時は南北の方向の通気を考えるものなので、西からの強い風がとても涼しく感じたことは、僕にとって意外なことでした。昔から沖縄の家屋で、台所や風呂、便所を西側に造る理由があるとすれば、おそらくこの西風による涼しさからきているということが考えられます。

この西風の強さについて考えてみた

沖縄諸島は地理的に特殊な位置にある。沖縄周辺をとりまく外的環境について調べてみた結果、沖縄県は中国大陸からの偏西風と南からの黒潮の流れが交差している場所に位置していることがわかった。この気流と海流による2つの大きな「エネルギー（風水的な意味）」が沖縄に集中しているように見える。

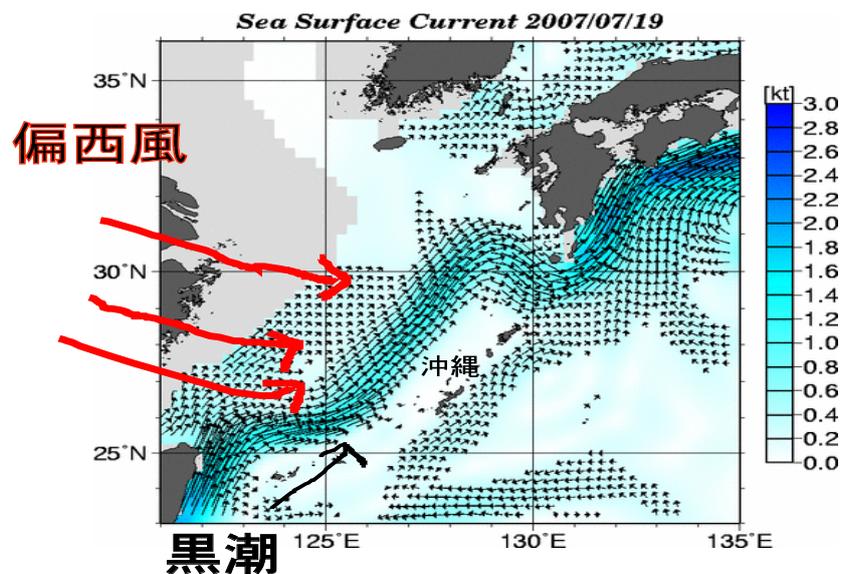


図 6: 西からの風の正体
(図は『気象庁：2007年7月の黒潮の状況』をもとに作成)

その家の縁起を大きく左右するカマドを西に配置するという沖縄の伝統については、これらの特殊な位置条件から生まれる西風に対してのある種の信頼（信仰心？）のようなものが、沖縄の人には古くからあったのかもしれないと思いました。

7、東と西について

東の台所はなぜ不吉と言われるか考えてみた

古くからの中国の風水や日本の風水では「東の台所は吉」と言われるのに対して、沖縄では「東に台所があると不吉なことがある」とよく言われます。これについては上記の図5の中村家に見られるような、沖縄の伝統的な台所の配置を無視したための「風土との不和による問題」であるとも考えられるけど、ほかにも何か原因があるかもしれません。昔から沖縄では台所はその家の繁栄の象徴であり、自分の子供に「カマド」という縁起のいい名前を付けることも多かったというほど、家相的に重要な位置を占めていました。僕の父の知り合いの間にも、東に台所を配置した人がいて、その家の人が不慮の事故や急病で亡くなったという不吉な話を実際にいくつか聞いたので、健康科学的な理由だけとは一概には断言出来ないと思います。

祖先を大切にしよう。

ここからは自分なりの推測になってしまうが、東の台所がいけないと言われる原因はむしろ東にもってきた台所よりも、それによって西に追いやられてしまった和室の方にあるのではないかと思う。科学的な根拠はないけど、沖縄では仏壇を西に配置することがまず良くないと言われる。仏壇は日が昇る東の方位に配置するのが基本であり、日の沈む西に仏壇を配置するということは「先祖を大事にしていない」となってしまうようです。「罰が当たる」と言ってしまうまでもなく、先祖への信仰がおろそかになってしまうことによる「潜在意識的な不安」がその人の情緒や精神面に左右するとしたら、急病や不慮の事故にも説明がつくのではないだろうか。もしそれが原因だったとしたら、西側に和室がある家でも、対処法として普段から自分の祖先に対しての信仰心を大事にして、普段から仏壇に手間をかけるように心がけたり、こまめに墓参りに行くようにすれば、何も問題はないのかもしれない。

東と西 part.2：気づいたこと

このレポートを編集している途中で気づいたことですが、「東北」「東南」など、東側の方位は「東」で始まっているのに対し、西側の方位は「北西」「南西」というように、「西」で終わっていることが分かります。これに関しては人によっていろんな呼び方があるので一概には言えませんが、「東から日が昇り、西に沈む」という「東から西スタイル」がこういう所でも見受けられました。

東と西にまつわる話

また、東と西に関する有名な話としては、聖徳太子が隋の皇帝に宛てた手紙に「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」というくだりがあり、これは中国のことを「日が沈むところ」として中傷していると言われています。南北に細長い国である日本にも「天下の分け目」と言われた1600年の関ヶ原の戦いのように大きな戦いがあったし、現代でも漫才や甲子園などの全国大会では関東対関西の構図が面白くあつかわれます。アメリカにも東海岸勢と西海岸勢のギャング同士の抗争があつたりします。

8、日本列島における東京と沖縄の位置関係

もうひとつ気づいたこととして、地理学的な問題になるかもしれないけど、日本最大の経済都市である東京は、日本列島の中心からみて繁栄の方位である「東南」に位置するのに比べ、経済的に困難な状況である沖縄県が「日が沈む」南西の方位に位置するということを考えると、風水的な話で説明がついてしまうのも面白いと思いました。日本の標準時刻は兵庫県の明石市が元になっていますが、東側に住んでいる人は日の出の時刻の早く、西側に住んでいる人よりも当然寝起きが早いことで体内時計が早く作動するため、バイオリズム的な面でも活発的に仕事に臨めるのかもしれませんが、そのことによってビジネスに対する姿勢が違ってくるとしたら、沖縄の人が東京の人と比べて仕事熱心になれないことにも説明がつきます。

これを世界に置き換えてみると、

世界的な範囲で考えてみても同じことが言えると思います。世界の時刻の基準になっているイギリスのグリニッジ天文台を、兵庫県明石市の例と同じように考えると、これより東側に住んでいる東洋人が、欧米北米南米の人たちに比べて勤勉な性格が強いということにも説明がついてしまいます。この事実については、これから研究する題材として我ながらとても興味深いところに気がついたなと思いました。

比較実験：日の出の時刻がどれくらい違うのか

東京都と沖縄県で、実際に日の出の時間にどれくらいの差があるのかについて検証してみる。（検証には、『国立天文台 / 暦計算室』（参考3）の計算システムを利用した。）

	東京都	沖縄県
1月29日	6:44	7:15
7月29日	4:46	5:53

以上の結果から分かる通り、冬（1月）には30分程度、夏（7月）にはなんと1時間10分も差があるという結果が出た。日の出の時刻に一年平均45分の時間差があるとすると、

$$45 \text{ 分} \times 365 \text{ 日} = 16,425 \text{ 分} = \text{約} 274 \text{ 時間} = \text{約} 11.4 \text{ 日}$$

東京の人も沖縄の人と同じ日本時間をもとに生活しているので、単純に日の出時刻の差が毎日の起床時刻に影響するとしたら、東京の人は沖縄の人に比べて、毎年約11日以上の時間の余裕が出ることになる。このように沖縄に住んでいる人は東京の人と比べて、社会生活上で予想以上に大きなハンデがあることがわかる。「だったら北海道の方が東京よりも東にあるんだから、北海道の方が勤勉になるんじゃないか」、という疑問もでてくるが、たぶん単純に寒いから体内時計の作動が遅いんじゃないかと思います…。

ということは…！

沖縄県が経済的に発展するための一番の近道として、「日本とは手を切って、中国の一部になる」というアイデアが考えられます。いままで「日本の西側」にあった沖縄県が「中国の東側」に

なって中国の標準時間をもとに生活するようになれば、ライフスタイルは大幅に変わっていき、沖縄人の県民性は現状のゆったりとした『失業・貧困・離婚・自殺なんくるないさモード』から、勤勉でまじめな『戦略的チャイニーズビジネスモード』にシフトしていくはずです。それによって、日本に併合された19世紀以来ずっと「日本の西側」として眠らされていた琉球国民パワーが「中国の東側」になることによって爆発し、上海や香港、台湾以上の経済都市が沖縄県に形成されるかもしれません。中国の人は歴史的な背景から日本人（ヤマトの人）を嫌う性格が非常に強いですが、古くから中国と深い交流をもっていた琉球（沖縄県）の人に対しては差別意識がなく、日本人とは別の人種として考えているという話をよく聞くので、それが本当なら中国人と沖縄人は仲良く手を組めるはずです。実際に、台湾の中華民国政府は、1972年の沖縄返還が日米間の取り決めだけで進められたという経緯に不満を持ち、日本への「沖縄」の帰属を正式に認めていないため、いまだに「琉球」の表記を使用し続けているそうです（参考6）。経済的にも国民保証の面でも不安定になりつつある日本から独立し、中国に助けを求めることによって、何年後かには逆に中国を助けるほどの経済都市に発展するチャンスかもしれません。しかし、世界でもトップクラスの安全国家といわれる日本と比べて、経済的にも格差が大きく国民の保証も不安定である中国の一部になることのリスクを考えると、このギャンブルはとても現実的じゃないという気がします。

9、追記・ヤマト人と沖縄人との違いに関して

ヤマト人と沖縄人との違いに関する話題として、高校の日本史の授業のときに先生から聞いた話なので詳しくは覚えていないけど、実際に沖縄の人とヤマトの人とはそれぞれ祖先が違うそうです。沖縄の人の祖先は、中国大陸の南の方からそのまま東にのぼってきた「旧モンゴロイド」という人種だったのに対して、ヤマトの人の祖先は、中国から現在のロシアに北上して北海道の方から日本本州に降りてきた「新モンゴロイド」らしいです。新モンゴロイドは北を經由したことによって、温度が逃げにくいようにするために顔の表面積を少なくしようとして進化した結果、沖縄の人の顔と違って起伏の少ない薄っぺらい顔になったそうです。あと昔読んだ本で言ってたんですが、新モンゴロイドの中に遺伝子が変わってしまったやつがいて、その子孫はお酒が飲めなくなったそうです。実は、世界的に見てもお酒が飲めない人種はその子孫の人たちだけだそうです。

10、感想

今回のレポートでは調べものをするということ以上に、自分なりに思いついたアイデアや考えをふくらませることに重点をおきました。すこし空想が大きくなってしまい、信憑性については確かめられませんでした。自分なりに改めて理解が深まったと思うしとても楽しかったです。今回の目標は、調べて学ぶというやり方ではなかったもので、先走った自分の予想がどれくらい正しいのかを調べるの方が大変でした。いまの時期は時間に余裕が無くて、細かい部分まで検証できなかったということがちょっと悔しいですが、今後またこういう機会があったらこの研究(?)を続けたいと思います。

参考

(参考1) 小池康壽の現代家相学・住まい間取り学

<http://www.kasou.org/>

(参考2) 和来龍のおもしろ琉球風水

<http://www.ryukyunosato.com/>

(参考3) 国立天文台 / こよみの計算

<http://www.nao.ac.jp/koyomi/koyomix/koyomix.html>

(参考4) 帝国書院「新詳高等地図」(中学時代の地図帳)

(参考5) 気象庁：九州沖縄海流

http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/e_4/nagasaki_cur/nagasaki_cur.html

(参考6) 琉球 - Wikipedia

<http://ja.wikipedia.org/wiki/琉球>